

1 「さ・ぬ・き力」(非認知能力)に関する子供(35名)の実態

授業づくりの重点項目		
<p>さ力 社交性</p>  <p>共感性 協調性</p>	<p>ぬ力 目標への情熱</p>  <p>粘り強さ 忍耐力</p>	<p>き力 自分を信じる力</p>  <p>回復力 自制心</p>
<p>「協調性」の自覚度が高い。友達の意見を最後まで聞こうとしたり、一緒に活動したりすることが楽しいという実感がもてていることが伺える。また、「友達が困っていたら声を掛けている」の項目の値が高い。友達を思いやり、一緒に解決することのよさを感じている子供が多いと考えられる。</p> <p>一方で、「友達に気軽に声をかけている」と答えた子供は他の項目に比べて少なく、自分一人で行動することで満足している子供も数名いる。</p>	<p>「目標への情熱」の自覚度が高い。特に「目標を立てて、それを目指して頑張っている」「授業の中で新しいことを知るのが楽しいと感じている」の項目の値が高い。様々な活動に前向きに取り組む子供が多いことや朝の会のスピーチ等で目標を表出し、明確な目標に向かえていることが分かる。</p> <p>「忍耐力」の自覚度が他に比べて低い。特に苦手なことにも自分から挑戦している様子が見られにくく、自分の目標が明確になった一方で、「失敗したくない」と強く感じている子供がいる。</p>	<p>「き力」の自覚度については、三項目とも高い。特に「自分には得意なことがある」と答えた子供は32名であり、得意なことには自信をもって取り組むことができる子供が多い。「自分が困っていることや気持ちを打ち明けられる人がいる」と答えた子供も多く、一人で困ったときには友達や先生が助けてくれるという安心感をもって学校生活を送っていることが伺える。周りの人の意見に流されずに行動している子供も多く、自分の意見をしっかりもてるようになったと考えられる。</p>

2 教科に関する子供の実態

- 絵よりも工作が好き (17名) 理由: いろいろな道具・材料を使う, 完成後に遊べる など
- 工作をしているの失敗したと思うことはどんなことか (複数回答可)
 - ・のりの付けすぎ (12名) ・切り間違い, のりが付かない (各4名) ・思い通りにいかない, 違うところにのりを付けた, 想像と違った など (各2名) ・特にない (4名)
- 失敗したらどうするか
 - ・やり直す, 別の方法 (15名) ・手伝ってもらう (9名) ・友達, 先生に相談 (7名) など

3 個別支援が必要な子供の実態

A児…図工の授業の中で, 自分の表したいイメージをもつことに時間がかかり, それを表出することも苦手なため, 交流ができていくことがある。しかし, 友達のアイデアから少しずつイメージをもち, 自分の作品に生かす経験を積んできたことで, 友達と一緒に活動する楽しさを感じている。

第1学年東組 図画工作科学習指導案

「進めコロリンオリジナル大作戦～かみざらコロコロ～」

学習指導者 毛利 二実子 ・ 支援員 内田 珠世



1 本題材で目指す『自ら伸び続ける子供』の姿

【授業の詳細】

本題材では、身近な材料である紙皿や紙コップなどを組み合わせ、自分の思いに合った作品（コロリン）をつくる。子供たちは、参考作品を転がした際の、動きの面白さや飾りの見え方に興味をもち、「世界に一つのオリジナルコロリンをつくりたい」という課題を見だし、つくりながら表したいことを具体化していく。飾りの見え方に着目して、さまざまな工夫をしながらオリジナルコロリンの完成に向かう中で、動くことによって変化する形や色の面白さや、つくりたいものを表現する楽しさを味わっていく。その過程で、参考作品や友達作品からアイデアを得ながら、形や色などを活用し、つくりたいものを粘り強く工夫してつくっていくだろう。例えば、「僕はパタパタコロリンにしたいから、紙テープのジグザグを付けたよ。転がすから見てね。」「いいね。パタパタするようになるよ。工作用紙のジグザグも付けたらどうかな」「なるほど。やってみよう」「私は、ふさふさを付けたよ」「いいね。飾りの色が虹みたいだね」「虹色コロリンにしよう」などと友達の工夫を聞くことで、多様な飾り付けの工夫に気づき、発想を広げる。そして、実際に材料や色の工夫を試し、納得するまで飾りを付け足したり外したりしながら、自分のイメージをより明確にしたり、イメージそのものを更新したりしていく。自分の表したいものを見付け、形や色などを意識し、つくりたいものをつくっていくことの楽しさを実感した子供たちは、生活の中で形や色などに目を向け、他の題材や生活科のおもちゃづくりなど、さまざまな場面で、主体的に造形活動に取り組んでいくだろう。

2 題材計画と働きかけの概要（本時 3/5）

次	学習の流れ	働きかけ
一	<p>① 先生コロリンを転がしてみよう</p> <p>教師の飾りや模様のない数種類の参考作品を実際に転がしてみることで、構造や接着の仕方、転がり方などに興味をもち、構造や接着を工夫することで面白い転がり方になることに気付く。接着が不十分な物も観察し、接着の大切さやその方法を知る。また、提示された飾りを付けた作品から、その飾り付けの工夫に興味をもち、自分も「世界に一つだけのオリジナルコロリンをつくりたい」という思いを高める。</p>	<p>見通し 信【見て見てタイム】③④</p> <p>表したいものを表すために、自分の作品を転がして見せ、どのような工夫をするかを既習事項（お助けヒントコーナー）から選択し、表出することで本時の活動の見通しをもつことができるようにする。㊟表したいものを表すための工夫を選んでいる姿を学習目標を設定した後、教師が称賛する。</p>
	<p>② 自分コロリンをつくろう</p> <p>紙皿と紙コップなどの芯材を組み合わせて基本となる仕組みをつくり、実際に「お試し坂」で転がし、動きを確かめる。PCで写真記録する。自分の作品（「コロリン」）をどのような「コロリン」にしたいか考え、飾りを試す。</p>	<p>行動 粘【お試しタイム】②～④</p> <p>グループに一つの坂道（お試し坂）や、材料コーナーを設置することで、転がしながら材料を選んだり飾ったりを繰り返し試しやすくする。㊟転がして試すことで、自分のイメージに合う材料を選んだり飾ったりを粘り強く試すことで、表し方を考え、工夫している姿を製作中に教師が称賛する。</p>
二	<p>③④ 世界に一つだけのオリジナルコロリンにしよう</p> <p>自分のイメージに合うような材料を選んで、飾り付けの工夫を考え、「コロリン」に模様や飾りを付ける。その際友達と交流しながら「お試し坂」で実際に転がしてその形や色、見え方を確かめ、自分のイメージに近づけていく。できた作品をPCで写真記録する。</p>	<p>振り返り 信【コロリンすごろく】②～⑤</p> <p>PCで記録したものを見返し、コロリンすごろくに位置付けることでその変容を実感し、「世界に一つだけのオリジナルコロリンに近づいたか」を振り返ることができるようにする。㊟表したいものを表せたことを実感している姿を即時的に教師が称賛する。</p>
	<p>⑤ 進めコロリン発表会をしよう</p> <p>ワークシートに作品の好きなポイントや込めた思いを書く。自分や友達の作品で遊ぶことを通して自分の作品の面白さや友達の表現の工夫を感じ取り、メッセージカードで伝え合う。</p>	

3 本時の学習

目標	自分のつくりたい「コロリン」をつくることができるように、飾りの見え方や動きを試したり、友達と交流したりする中で、飾りの形や色を考えながら、どのように表すかについて考え、工夫して表すことができる。
----	---

学習活動と働きかけ		主な子供の意識	
見 通 し	1 学習課題を設定する。	自分コロリンを転がすのは面白かったよ。でも、今のままじゃまだ面白くないな。もっと面白い世界に一つだけのオリジナルコロリンにしたいな。	
	世界に一つだけの オリジナルコロリンにしよう		
行 動	【見て見てタイム】 [自分を信じる力] 2 自分で材料を選び、装飾を繰り返して、コロリンをつくる。 【お試しタイム】 [粘り強さ]	形や色を工夫して飾りを付けよう。	
		僕は、パタパタコロリンにしようと思ってるよ。転がすから見ててね。ここに紙テープのジグザグ折りを貼ろうと思ってるよ。	いいね。パタパタしているように見えると思うよ。私のは、先生みたいなふさふさを付けたいな。だから、スズラテープを使ってふさふさをつくるよ。
		なるほど。ふさふさをカラフルにしたらどうかな。	確かに。それもいいね。いろんな色で試してみるね。
		紙テープをジグザグに折ってみたよ。紙皿に付けてみよう。	黄色と赤と青のスズラテープをふさふさにしよう。
		お試し坂で転がしてみよう。	
		紙テープを折った飾りを付けたよ。どうかな。転がすときの飾りがパタパタするかどうか、見ててね。	ジグザグの形がいいね。工作用紙のジグザグもあったよ。一緒に付けてみたらどうかな。
		なるほど。いいね。	私のふさふさも転がったら面白いよ。
		色がきれいだね。虹みたいだね。	本当だ。虹色コロリンにしよう。
		もう一度つくって試してみよう。	
		工作用紙の方がしっかりして面白いな。紙テープじゃなくて工作用紙にしてみよう。転がすともっとパタパタしているように見えるかな。	もっと色を増やしてみよう。〇〇さんのお花紙もきれいだったな。スズラテープのふさふさにお花紙のひらひらも付けてみよう。
振 り 返 り	3 本時の学習活動を振り返る。 【コロリンすごろく】 [自分を信じる力]	オリジナルコロリンに近付いてきた。今日のコロリンを撮影しよう。	
		今日のコロリンはオリジナルコロリンに近付いたよ。工作用紙を使ったから、パタパタの動きが面白くなったよ。でももっと飾りを付けたいな。今日はコロリンマップの半分くらいにしよう。	もう少しでオリジナルコロリン完成だよ。「虹色コロリン」という名前ができたよ。虹色の飾りを増やしたから、今日はゴール近くにしよう。完成したらみんなで広い大きな坂で転がして遊びたいな。

評価	自分のつくりたいコロリンをつくるために、材料や色を自分で選んで工夫したり、友達のアイデアを生かしたりしながら飾りの動きや見え方を何度も試していく中で、自分の表したいものを表すための工夫を考え、その喜びを味わっている。 【方法：発言・様相・作品】
----	--

～見通し～ **学習活動1** 信【見て見てタイム】（3・4時間目）

自分の表したい「コロリン」をつくるために、「お助けヒントコーナー」に参考作品や飾りの工夫をまとめたものを提示しておき、自分で飾りを選択することができるようにする。本時は、前時にPCにどの飾りを使うかを記録しておき、それを基にペアで「コロリン」を実際に転がして見せ、表したいことを伝え合うことで自分の思いを表出する場を設定する。自分のつくりたい「コロリン」に向かって前向きに取り組もうと、まず工夫を選び、自分の思いを友達に伝える姿を全体で称賛し、価値付けする。

支自分のイメージがもてず、表出しにくいA児に対し、参考作品を使ってどんな感じが好きかななどを尋ねることで、具体的に考えられるように支援する。交流の仕方のデモンストレーションをする。



【お助けヒントコーナー】

～行 動～ **学習活動2** 粘【お試しタイム】（2～4時間目）

本題材では試行錯誤を繰り返すことによって自分の表したいものを見付け、表現することを目指している。そこで、何度でも試せたり、作りかえたりしていくことができる「お試しタイム」を設定する。本時はグループごとに「お試し坂」を設けることで、飾り付けをしては坂で転がし、転がることでの飾りの見え方を確かめては飾る、という繰り返しができる場や、材料コーナーを設け、自分のつくりたい飾りに合った材料を選ぶことができる場を設定する。また、飾りを仮止めをすることで転がり方を試した後に取り外すことも可能であることを助言し、つくって試すことでイメージに合う工夫を考えられるようにする。



【お試し坂】

そして、「僕は飾りがパタパタした感じにしたい。転がすとどうかな」「いいね。工作用紙のジグザグもあったよ」「なるほど。試してみるね」などとペアの友達と作品を見せ合う活動を行い、友達の作品の工夫からイメージを広げたり、自分の思いをはっきりさせたりしたい。友達との交流によって自分のイメージが変わったり、イメージが更新されたりした姿も称賛する。製作が進まない子供に対しては、参考作品を基に具体的な飾りの見え方を試すことで表したいことが見付けられるようにする。また、友達との交流がしにくい子供にはペアの相手に配慮し、交流しやすいようにする。何度も飾り付けをしては試し、粘り強く工夫をして、自分の表したいものをつくらうとしている姿を製作中に称賛し、価値付けを行う。支友達と交流がしにくいA児に対して、どんな感じにしたいかという思いを聞き、伝え方を助言したり、友達のアイデアから自分のイメージをもつヒントになった経験を想起させたりし、交流することのよさを感じられるよう、支援する。

～振り返り～ **学習活動3** 信【コロリンすごろく】（2～5時間目）

振り返りでは、題材全体を通して、コロリンが自分のつくりたい「オリジナルコロリンに近付いたか」という観点での振り返りを行う。製作後の「コロリン」をPCの学習支援アプリに記録していき、「コロリンすごろく」に自分で位置付けさせ、前時までの作品と比較させることで、本時、表したいコロリンの完成にどのくらい近付くことができたかを自己評価できるようにする。そしてその理由を全体の場で問うことで、前時までの変容や粘り強く取り組んだことで、コロリンが完成に近付いていることを意識させて称賛する。また、思うように作品が変容しなかったと感じている子供には、次にしたいことを確認して次時の見通しをもたせるとともに、試行錯誤していた具体的な姿を伝えたり、自分が表したいイメージをはっきりもつことができていることを称賛したりすることで自分の頑張りを前向きに捉えられるようにしたい。



【コロリンすごろく】

支「コロリンすごろく」の記録に迷っている子供に、今日の頑張りを語らせることで自己評価できるよう個別に支援したり、学習アプリの操作の支援を行ったりする。